思いやりとゆるさで強くなる

SS2009 ポジション・ペーパー

June 17, 2009

本橋 正成

自己紹介

今でこそネットブックなどで手軽になりましたが、1990年頃のモバイルPC環境とその通信環境は劣悪で、ユーザ視点で改善と提案を行おうと立ち上がった携帯PC技術研究所のコアなメンバーです。当時は、天下一品のラーメンから日々高エネルギーを摂取しながらも、さまざまな議論をするだけでなく、いくつかの改善と提案を実現し、みんなで成果を執筆しました。趣味はトライアスロンで水泳3.9km、自転車180km、ランニング42.2kmを行うアイアンマン(IRONMAN)世界選手権にも出場しました。最近では波乗りを目指してビーチでじたばたしている遊び人です。

興味のあること

コンピュータの面白さとそこに関わる人たちのすごさに圧倒されつつも、心や脳、体に興味を持ちながら、強さを求めてきました。私を含めて、おそらく多くの方が、理屈抜きで「強いな、すごいな」と畏敬の念を感じる「強さ」です。深く広い意味で強くなれたらいいなあ、よく後戻りしつつも一歩ずつ一歩ずつ努力しています。

仕事においては、当初は独立系ソフトウェア・ベンダーの研究所に勤務し、その後、会社の設立と経営をしました。現在、損保保険会社の社員でビジネス企画と、要件定義／仕様策定のサポートしており、会社の方針として限りなくソフトウェア開発運用の100%内製体制から100%オフショアへの移行を実施しています。

興味のあるモデリング対象は、人間の体や心、ビジネスから社会、ソフトウェア開発まで多岐にわたります。たとえば、強い人のモデリング、強いビジネスのモデリング、そのビジネスを実現するシステムのモデリングなど見果てぬ夢

に向けて もがいております。

思いやりとゆるさ

ビジネスをモデリングする上で、自分を知り、相手や周りがどのような状況であるか、または、どのように影響を与えて変更していくのかに注目することは、大切なことのひとつです。商品なりサービスを実際に利用するお客様や、差別化を図りたい競合他社を知り、その中からコアで本質的な問題を探し出し、的確に解決することに注力していきたいです。そのビジネスを実現するソフトウェアも同様です。強いビジネスやソフトウェアの実現をサポートするために、相手や環境を予測するためゲーム理論をはじめ、主観的な統計の手法を取り入れることなど、より一般的になってくると考えています。

ゆるさ（ここでは、抽象的、あいまい、確率、相対的、進化的などをゆるさと表現しています）を適用することによって、強くなれる領域もあるのではないのでしょうか。社会やビジネス環境は刻々と変化し、並行してユーザの要望も刻々と変化していきます。そのような変化を理解し、変化を受け入れるためにも、ゆるさがはまる部分もあります。

今までの主たる方法は、すべてを厳密に予測し定義し、それに基づいたソフトウェアを構築していました。しかしながら、強いビジネスとそれを実現するソフトウェアを構築するために、大量のログや情報を統計処理するフィードバック系の構築や、最適だと予想されるビジネスやソフトウェアを構築する方法を探求したいです。この集合知や機械学習を利用したサービスは、Amazon のリコメンデーションをはじめ、既にいくつか実現しつつあります。このような実現方法を少しでも広げ一般化する試みです。

ここでは、業務知識などを織り込まれた実行可能知識やソフトウェア知働化、生成技術、MDA などのエンジン（モデル）のひとつとして、ゆるいソフトウェアを一般化し、強いビジネスのサポートを探求していきたいと考えています。